

第5回 地震・地震動検討会 議事録

1. 開催日時：平成18年 9月 15日(金) 13:00～15:00

2. 開催場所：(社)日本電気協会 4階 A会議室

3. 出席者：(順不同, 敬称略)

委員：翠川主査(東京工業大学), 瀨瀬副主査(東京大学地震研究所), 久野
幹事・梅木(中部電力), 佐伯(北海道電力), 樋口(東北電力), 高橋
(東京電力), 小笹(北陸電力), 阿比留(中国電力), 高橋(四国電力),
園(九州電力), 仲田(電源開発), 阿部(日本原子力発電),
佐藤(電中研) (計14名)

代理出席：岡崎(関西電力・伏見代理), 宮腰(清水建設・壇代理) (計2名)

オブザーバ：八代(東電), 生玉(日本原子力発電), 田中(原子力安全基盤機構),
菊地(東電設計), 石川(日本原燃), 菊池(リサイクル燃料貯蔵(株)),
花田(日本原子力技術協会), 中村(毎日新聞社) (計8名)

事務局： 荒木(日本電気協会) (計1名)

4. 配布資料

| | |
|-----------------|---|
| 資料 No.5 - 1 | 第4回 地震・地震動検討会議事録(案) |
| 資料 No.5 - 2 - 1 | 原子力発電所耐震設計技術指針 基準地震動策定(案) 第15回耐震設計分科会でのコメント対応案 |
| 資料 No.5 - 2 - 2 | 原子力発電所耐震設計技術指針第3章 基準地震動策定(案) |
| 参考資料 | J E A G 現状案と NISA 耐震安全性確認基準との比較 |

5. 議事

(1) 代理出席者及び前回議事録(案)の確認

事務局より、本日の代理出席者2名について、規約に基づき翠川主査の承認を頂いた。また、代理出席を含む出席委員は16名であり、規約上、決議に際して求められる委員総数の2/3以上の出席であることが報告された。

また、事務局より前回議事録(案)の紹介を行い、出席者全員の賛成で了承された。

(2) 原子力発電所耐震設計技術指針 基準地震動策定(案)について

資料 No.5 - 2 - 1 により、第15回耐震設計分科会でのコメントを受けた対応案について説明が行われ、資料 No.5 - 2 - 2 により基準地震動策定(案)の全体を通した説明が行われ審議した。コメント箇所を修正し、耐震設計分科会に諮るこ

とについて、挙手による採決の結果、出席者全員の賛成で了承された。

主なコメントを以下に示す。

- ・ 3.1.4 基準地震動の定義位置の本文及び解説で、基準地震動の設定は、耐震審査指針の表現に合わせて基準地震動の策定に修正し、前項本文の定義に合わせて基準地震動 S_s に修正する。
- ・ 3.2.3.2 経験的な方法の引用文献を明確にすること。
- ・ 3.2.3.3 断層モデルを用いた方法の(2)地震動評価方法 c.ハイブリッド法に小項目として a) ハイブリッド合成法と b) ハイブリッドグリーン関数法を追加する。
また、a.理論的方法及び b.半経験的方法の方法は手法に修文する。
- ・ 参考資料 3-10 断層モデルによる地震動評価法(3)ハイブリッド法の「理論的方法による計算には、----- ハイブリッドグリーン関数法が用いられることが多い」は、削除し、代わりに「地震調査研究推進本部等では、ハイブリッド合成法が用いられている」を追加のこと。
- ・ 参考資料 3-11 震源を特定せず策定する地震動として用いる応答スペクトルのレベルについての冒頭部文に、今後さらに最新知見を受けて精度の高いものを目指すことが重要である旨を追記すること。
- ・ 3.4 基準地震動 S_s の策定(2)震源を特定せず策定する地震動で、全周期帯で上回る場合には、震源を特定せず策定する地震動の応答スペクトルで代表させて、基準地震動 S_s を策定しなければならないは、策定することができるに修文すること。
- ・ 3.4 基準地震動 S_s の策定(5)その他で、「最新の知見を踏まえて安全上の観点から震源を想定し」の部分は、民間基準として具体的に書けないか。
現時点で詳細を記載することは難しく、安全審査の中で模索していくことになると思う。
- ・ 参考資料 3.2 マグニチュードの説明の計算式中の文字が文字化けしているものがあるので修正のこと。

以 上